

干潟八万石は今年も黄金色に染まりました。

つばきのうみ

「榑湖」が干拓され新田が売り出されたのは1674（延宝2）年春で、工事開始から6年後のことでした。

新田を最初に買ったのが大寺村（豊和地区）の八木権右衛門という人物

で、飯塚村長者松下から榑村（榑海地区）境までの土地9町歩を手に入れたとされます。

販売され始めた頃はまだ湿地帯が多く、榑新田の芝地を農民の屋敷地として与えるなどして新田

への移住が奨励されました。

1689（元禄2）年、榑新田全体の管理と年貢徴収などの仕事を行わせるため、3人の割元名主が幕府代官（地方行政官）から任命され、そのうちの一人が八木権右衛門でした。

榑新田に18か村が誕生したのが1695（元禄8）年で、翌年には村名が付けられ、市域では榑村下が「榑海村」、飯塚村下が「米持村」となりました。

大寺・龍尾寺山門の手



龍尾寺山門の手前にある石塔



前にある高さ2mほどの石塔は、元禄7年に八木権右衛門が造立し、境内の薬師堂と本尊も寄進したとされます。

堂前の石灯籠には、1809（文化6）年6月の日照りの際、村を挙げて7日間に渡り雨乞いをし、その結果6日間雨が降り続き五穀成就したと刻まれています。

榑新田の発展に尽くした八木権右衛門の足跡は、龍尾寺に残されています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080